

発達障害児療育キャンプ

あすなる学園おもしろクラブ

当学園では、毎年夏ごろ、入院している子どもを対象に宿泊を含むキャンプを実施しております。今年度は、入院比率の高まった発達障害児（多動性障害、高機能広汎性発達障害、学習障害）とその周辺の子どもたちを対象とした治療キャンプを8月9日～11日の間、自然あふれる白山町のわかすぎの里で行ないました。



キャンプに参加したのは、小学4～6年生 14名の男児。彼らは、中枢神経系の機能不全（と言われている）によって注意集中・衝動性・認知の偏り等が認められている子どもたちです。具体的には、聞き取り理解の悪さ・勉強のわかりにくさ・指示に従いにくいなどの特徴があるために叱責を受け、その結果、自己評価が低くなり更に問題行動を起こしてしまうという悪循環に陥っている場合が多くあります。そのような子どもたちに『不適切な行動をしない・させない』為には、“自分だって～のようにすればやれるんだ！”と思える体験を積み重ねていくことが大切であると考えています。

そこで、今回のキャンプでの目標を

- ① 障害特性に応じた適切な援助を通して、
適応的行動の獲得をし、自信につなげる。
- ② キャンプ活動を楽しむ。 としました。

キャンプ当日までの準備は2ヶ月前から始めました。未経験の活動には不安を持つ子どもが多いので、まず『キャンプ』のイメージを子どもたちが捉えられるように職員が下見で撮ってきたキャンプ場の各場所の写真を示しながら説明することから始まります。また、子ども達もそれぞれの個人目標を決め（自己決定）、そのことがキャンプ当日だけでなく、当日までの日常生活の中でも守れる様にシール評価をしていくようにしました。個人目標の例としては、『イライラしたら職員に言う』『気持ちを言葉で言える』『“シー”のサインで静かにすることができる』など個人の特徴に合わせたものをあげました。その他の活動としては、キャンプで使う虫かごを牛乳パックを使って職員と一緒に作ったり、野菜の切り方を示した写真を

見ながらカレー作りを練習したり、寝袋の使い方や片付け方の実習、遊びや活動の練習を行なうなどしてキャンプへの意識の準備も万端に当日を迎えました。

いざスタートしたキャンプ当日は、概ね予定通りに進行していきました。当日のプログラムも短いスパンで区切り、スケジュールや役割カードを首にかけて次に何をするかをわかりやすくしたり、場面ごとにシール評価ができる様に工夫をしました。

～プログラムの例～

13:00	川遊び（班別活動） ・川でみつけよう！大発見！ ・石あつめ、ジュース	ロープ設置：準備係 ジュース設置
14:00	着替え（バンガロー） シール評価：子ども係と	川遊び監視 （上・中・下流）
15:00	おやつ：すいか割り（グラウンド） 荷物の整理（バンガロー） シール評価：子ども係と	おやつ指導
16:00	夕食作り：カレー・サラダ 班別で決めた材料をもとに	写真にて作り方の説明：食事係 各班にて調理援助
17:30 18:30	夕食（藤棚周辺） 片付け シール評価：子ども係と	夕食指導 班別で皆で食事
19:00	夜の集い（研修棟） ・川で見つけたものの報告 ・石積み競争ゲーム ・1日の評価と振り返り 花火、おやつ	進行係 花火の準備：準備係 花火監視 おやつ準備：食事係

《休憩できない子どもたち》

今回のキャンプでも当然、時間がたてば活動には慣れてくるものの疲労は蓄積されてきます。特に2日目は、夏の炎天下での山登り・あまご掴み・プール遊びと続き、体力勝負の課題が多くありま